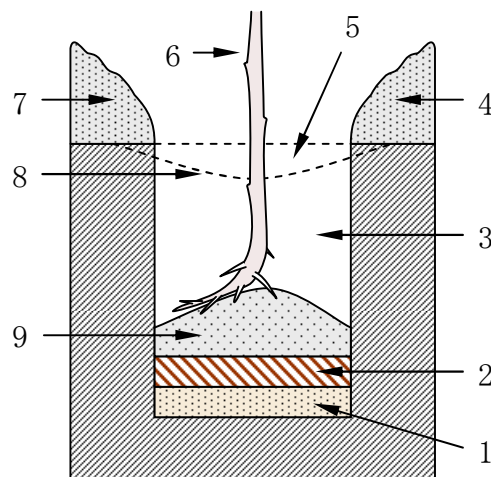


2-10 表 各種条件と植付けの深浅の関係 (南沢)

項目		浅植		深植	
土地	地下水	高		低	
	土質	埴	土	砂	質土
	肥瘦	瘦		肥	
	耕地	浅		深	
気象	地形	平	坦地	傾	斜地
	気温	温		寒	
仕立	雨量	多		少	
	方	根刈り		中高刈り	
桑園の種類		春蚕専用桑園		夏秋蚕専用桑園	
	桑品種	やまぐわ・ろそ う型 (長根性)		からやまぐわ型 (短根性)	

(4) 植付時期と方法 植付時期には秋植えと春植えがあるが、一般には春植えが多く、温暖地では、3月上中旬、寒冷地では3月下旬～4月上旬に行われる。

植付けの方法は植溝を幅 30～40cm、深さ 30～40cm に掘り、元肥として有機質肥料(堆肥・土中堆肥)を入れ軽く覆土する。苗木は垂直に立て、太い根を北側に向け支根は周りに拡げ、表土で根を覆土し根元をよく踏み固める。



植付けが終わったら枝条を剪定するが、春植えで根刈り仕立てとすときは 3～4 芽、中・高刈り仕立てでは 2 芽を残して切る。秋植えの場合は枝条を 30～50cm に切断しておく、翌春に春植えと同じ長さに剪定する。

1. こう底の耕土
2. 堆肥
3. 土を満たすべき場所
4. 掘り上げた心土
5. 植付後、土を入れないでおく所
6. 苗木
7. 掘り上げた表土
8. 土を埋めもどした上面
9. 表土

2-13 図 桑苗の植付け方

## 第4節 仕立法と収穫法

### 第1. 仕立法

桑は自然状態では大木になるが、栽培をする場合には桑の生理を害さない範囲で、良質かつ多量の桑葉を収穫するため仕立てを行う。仕立ては樹形を低く整え、桑葉の収穫・管理作業を容易にすることを目的としている。

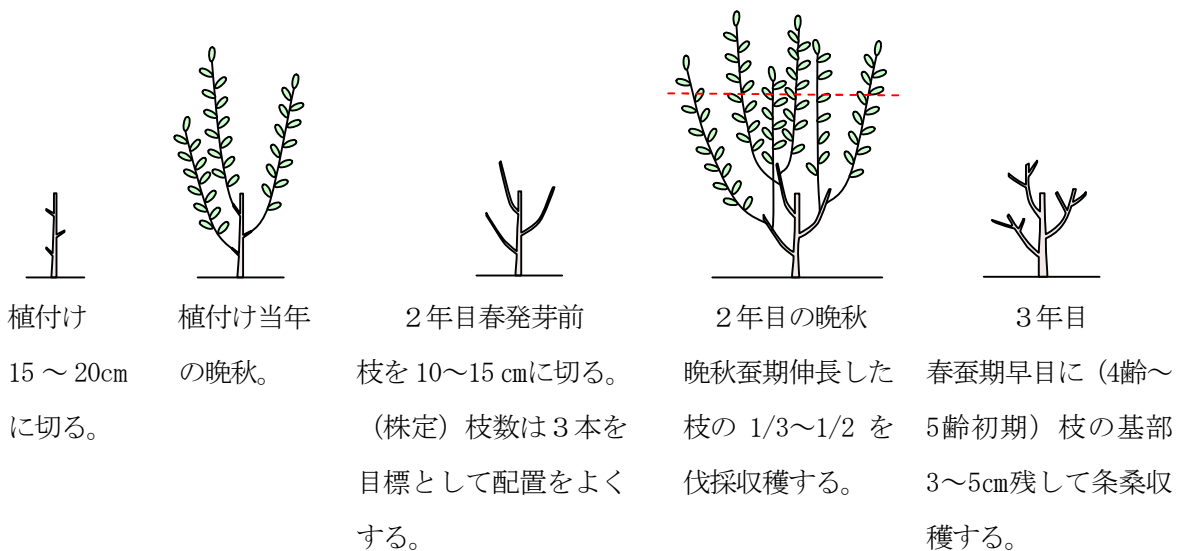
1. 仕立法の種類 桑の仕立法は、樹幹の高さと剪定の方法によって、根刈り（50cm以下）・中刈り（50cm～100cm）・高刈り（100cm以上）に分けられ、それぞれ有拳式と無拳式とがある。仕立法のうちでは根刈り仕立てが最も多く、わが国の栽培面積の約71%を占めている。また、中刈り仕立ては約20%で、高刈り仕立ては減少する傾向にある。地域別では東北地方に中・高刈り仕立てが多く、関東から以西の地方では根刈り仕立ての割合が高い。仕立法別・桑園面積の年次別推移は2-11表のようであるが、次に主要な仕立法について説明する。

2-11表 仕立法別、桑園面積の年次別推移（「農林水産統計」より）

区 分		昭和32年		昭和39年		昭和46年		昭和49年	
		面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
仕立法別	根刈り仕立て	106,142	64.3	81,069	60.1	85,202	63.0	87,979	71.0
	中刈り仕立て	42,084	25.5	43,658	32.3	43,400	32.0	31,853	26.0
	高刈り仕立て	8,029	4.9	5,439	4.0	3,616	3.0	2,885	2.0
	立 通 し	8,699	5.3	4,872	3.6	2,168	2.0	1,806	1.0
計		164,954	100.0	135,038	100.0	134,386	100.0	124,423	100.0

（昭和39年以降は「業務統計」より）

(1) 根刈り拳式仕立法 仕立法のうち最も普及している方法である。この方法は栽植本数が多く（10a当たり800～1,000本）、株の完成が早いことから早期に収穫ができ、さらに桑園管理用機械の使用にも適している。

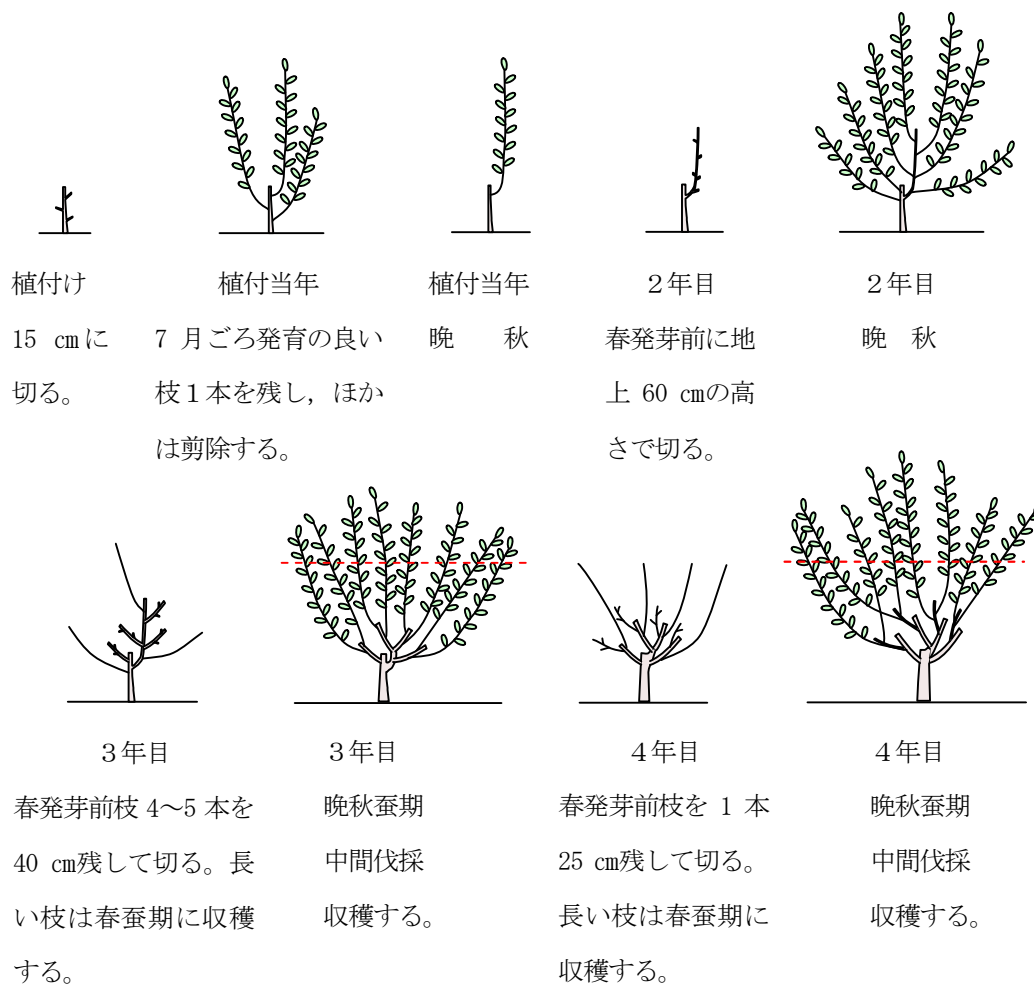


2-14図 高根刈り三拳式仕立法

仕立ての方法は、植付け後地上10～15cmで切り、2～3本の新梢を伸長させる。植付け2年目には、春発芽前に枝条の基部から5～10cm残して切り株頭をそろえる。これを一般

に株定めという。晩秋蚕期には平均枝条長の1/2~1/3を目安に中間伐採取穫を行う。植付け3年目には春蚕期に枝条を1~3cm残して夏切り収穫する。この時期から本格的伐採取穫となるもので、これを鎌入れかまといっている。

なお、根刈り仕立てよりやや高目の仕立てを高根刈り仕立法と呼び、最近多く採用されている。



2-15 図 中刈り無拳式仕立法

(2) 中刈り無拳式仕立法 (山形式仕立法) この方法は拳こぶしをつくらないで定芽を發育伸長させるものである。発条数が安定しており収量も多く、また樹勢が長く維持されるなどの利点がある。

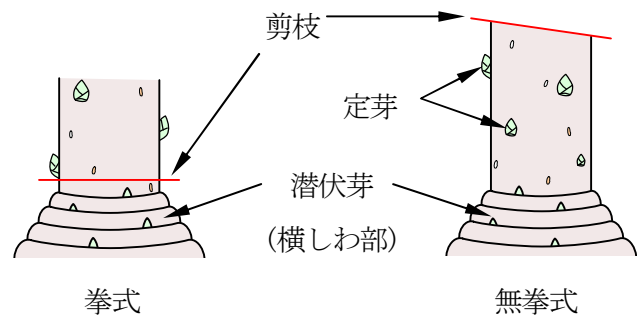
植付当年は新梢を1本、秋まで伸長させて翌春発芽前に地上約60cm残して切る。それから発芽した新梢は秋まで生長させる。3年目の春発芽前に生長の良好な枝条4~5本を選び、配置を考えて40cmくらい残して切る。切った枝条から発芽した新梢はそのまま生長させて、晩秋蚕期に中間伐採取穫を行う。4年目には春発芽前に前年春切りした枝条から

各1本、そのほかは配置をみて25cmぐらいの長さに春切りをする。残りの枝条は基部から夏切り収穫する。発芽した新梢は秋末まで伸長させて、晩秋蚕期には3年目と同じように中間伐採取穫を行う。5年目以降は4年目とほぼ同様に年々春切り、夏切りの交互伐採(株内輪収)を続けていく。この場合の剪定の長さは約15cmとする。

## 第2. 収穫法

1. 桑の伐採と株直し 桑を伐採取穫する場合、拳式仕立てでは一斉に刈り取ることができるが、無拳式仕立てでは枝条を1本ごとに吟味し、定芽を残して剪定しなければならない。いずれの場合でも収穫期は多忙であるので、収穫の際30~40cm条を残して収穫し、1~2日後に定まった方法でいねいに剪定しなおすが、これを株直しといっている。

しかし、手作業で収穫する場合は、一般に株元から伐採して株直し労力を節減している場合が多い。



2-16 図 枝条の切り方(剪定) (南沢)

2. 主な収穫法 収穫は桑の生理を維持しながら良質の桑葉を長期にわたって、また必要に応じて多量に得な

ければならない。したがって、桑の栽培上の諸条件、特に仕立法に合致した方法を採用する必要がある。ここでは基本的な収穫法について述べる。

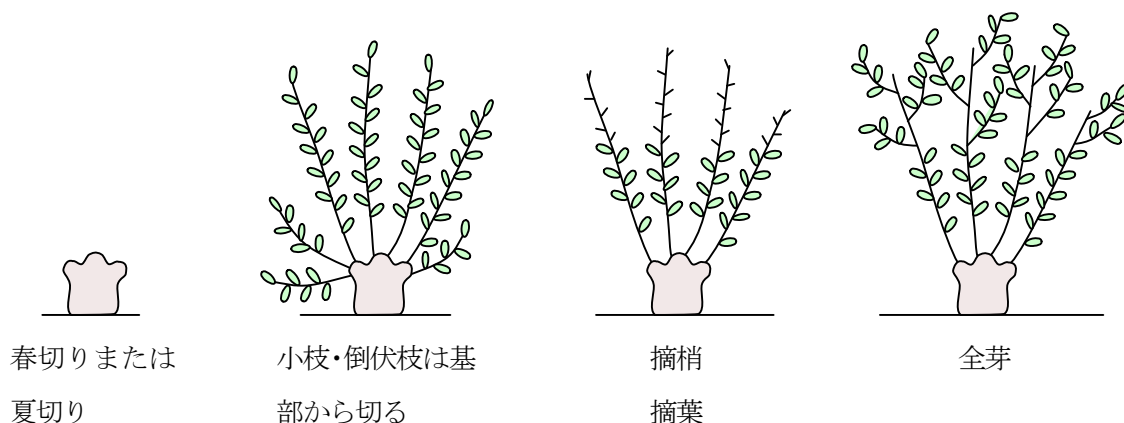
### (1) 稚蚕用桑収穫法

- 1) 春蚕用桑 春蚕では、全芽の発育によって掃立て日を決めるため、発芽伸長した全芽を蚕の発育に合わせて、芽摘み・こき取法などで収穫する。また蚕の発育に合わない場合は、葉の硬軟を選択して全芽収穫する方法もとられている。
- 2) 夏秋蚕用桑 夏秋蚕用桑の収穫法には、葉摘みと芽摘みがある。夏秋蚕期の桑は春蚕期の桑より葉質が劣るといわれ、良質な桑を得るため稚蚕用桑育成が行われている。その主な方法には、摘梢分枝数枚摘法・古条全芽数枚摘法・摘梢摘葉全芽育成法・摘梢分枝全芽育成法・残条式全芽育成法などがある(附表IV-1参照)。

摘梢摘葉全芽育成法 春切りまたは夏切りして、その後発芽伸長した新梢が60~80cmに伸びた時、摘梢及び摘葉処理をする。処理の方法は、小枝・倒伏枝などを基部から切除し、発育のよい新梢全部を先端約15cm摘梢するとともに、新梢の上半分の葉を摘みとる。このようにしておく<sup>えきぎ</sup>と腋芽が発芽伸長して2番枝となる。これを

全芽として蚕齢に合わせて使用する。

処理は掃立て13～18日前を目安に行うが、晩秋蚕期用では早目がよい。蚕齢に適した全芽を得るためには、掃立て予定日に対して2～3段階に分けて実施しておくこと安全である。

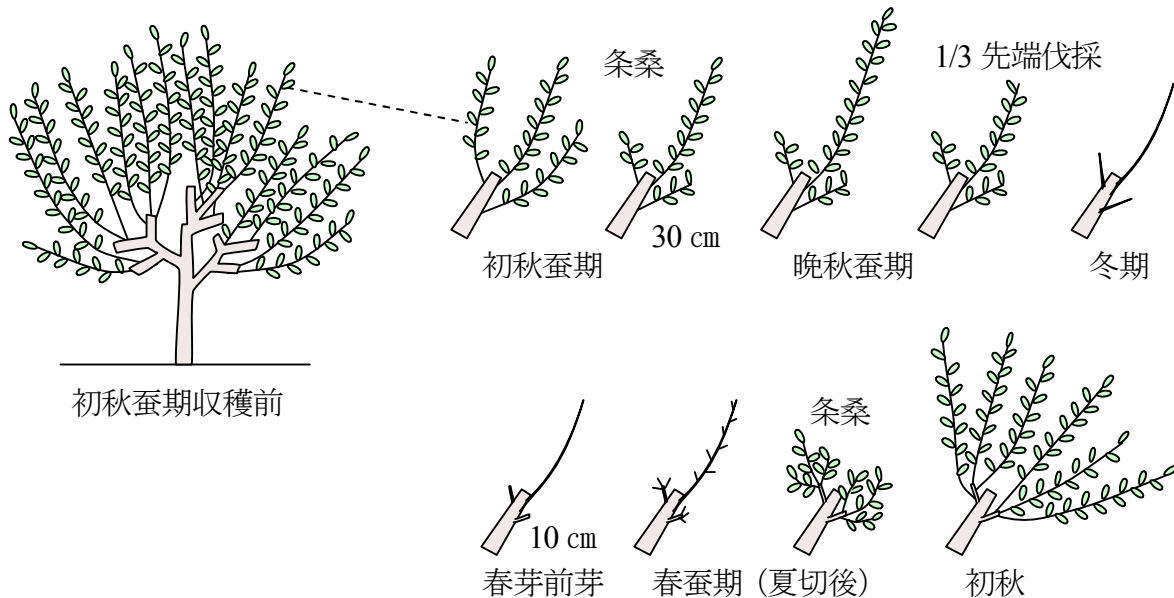


2-17 図 摘梢摘葉全芽育成法

(2) 壮蚕用桑収穫法 年間条桑育を行うための収穫法としては、夏切法が最も多く、春切法がこれに次ぎ、そのほかに交互法・株上夏切法・輪収法などがある。

- 1) 春切法 (初秋・晩秋中間伐採法) 春切りを行い発芽伸長した新梢を、初秋蚕期に矮小枝と長い枝の半数を30cm上げて残条伐採収穫する。晩秋蚕期には残りの半数を同じように30cm上げて残条伐採収穫する。
- 2) 夏切法 (初秋間引・晩秋中間伐採法) 春蚕期に条桑収穫(夏切り)し、夏切り後発芽伸長した新梢のうち、初秋蚕期に矮小枝及び長枝の1/3を基部から間引伐採収穫する。晩秋蚕期には残り枝条の上半分または2/3を中間伐採して収穫する。
- 3) 交互法 (中刈り無拳式仕立ての条桑収穫法) 春切りを行うが、全条の約60～70%を基部10cm残して伐採する。春蚕期には、残った枝条を基部から条桑伐採収穫する。初秋蚕期には春切りした枝条から発芽伸長した新梢の60～70%を、基部から30cm残して伐採収穫してこれを相続枝とする。晩秋蚕期は残り30～40%の枝条から先端1/3を伐採収穫する。翌春発芽前に前年30cmに切った相続枝を約10cmに切りつめ、春蚕期には1/3に先端伐採した枝条を基部から夏切りして収穫する(2-18図)。
- 4) 輪収法 春切法と夏切法を年々交互に行う方法である。春切りした年は、春切り後発芽伸長した新梢を初秋蚕期間引収穫し、晩秋蚕期は中間伐採収穫する。夏切りの年は、春蚕期に夏切り収穫を行い、その後発芽伸長した新梢中から初秋蚕期間引、晩秋蚕期中間伐採収穫をする。

なお、春切法と夏切法を交互に行う場合を一春一夏。春切法を2年、夏切法を1年で輪番にするときは二春一夏。また、春切法1年、夏切法を2年の輪番に収穫する方法を一春二夏とっている。



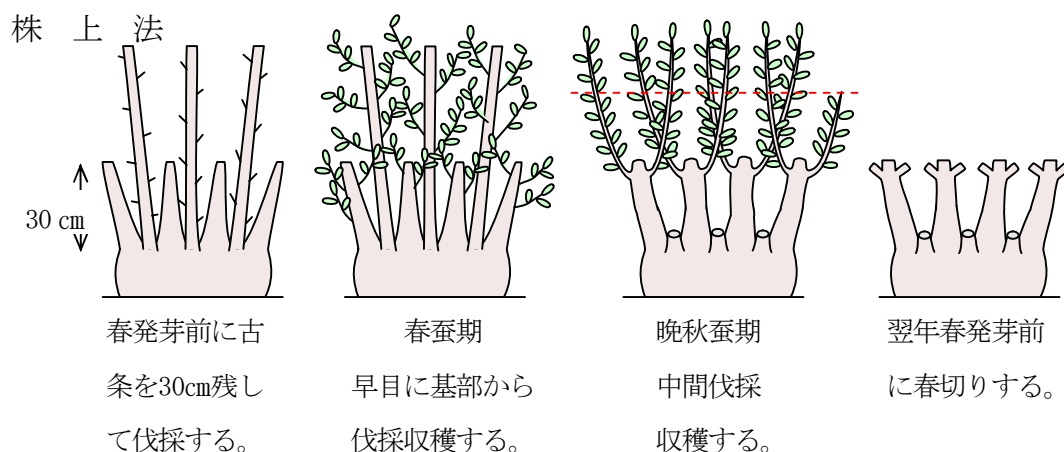
2-18 図 交互法（農林蚕試より）

- 5) 夏秋蚕専用条桑収穫法 この方法は、夏秋蚕用桑の収穫を主体とするものであって、春夏秋兼用桑園には高橋式（春蚕期及び初秋蚕期収穫）・春蚕期計画残桑法（春・初秋・晩秋3期収穫）がある。また、初秋蚕用・晩秋蚕用の専用桑園を設けて、それぞれの蚕期に一斉伐採収穫する方法もある。

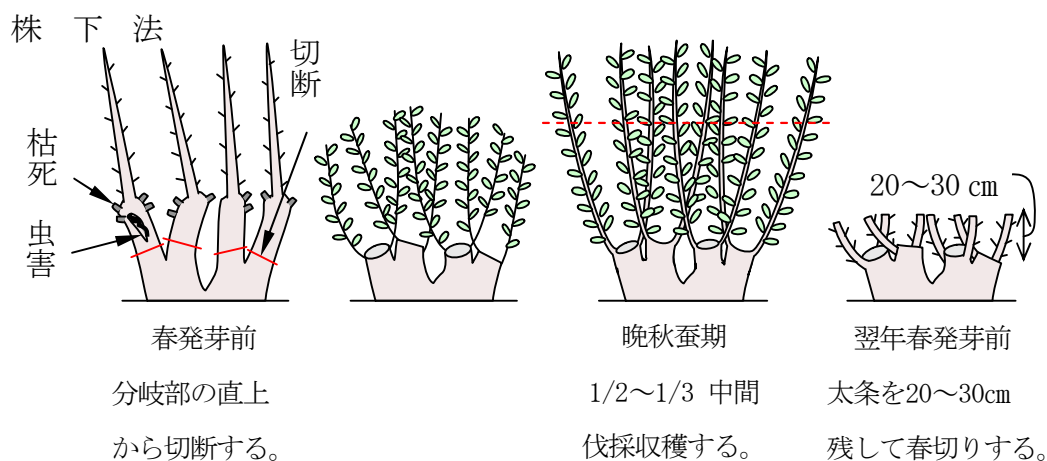
**3. 樹勢更新法** 桑は植付け後5～8年間で最も生育が盛んで、高樹齢になると老朽化する。このような場合は桑園を改植するか、樹勢更新を行う。樹勢更新は衰えた株を若返りさせる方法で、実施する場合は地力の培養につとめておく必要がある。

(1) 株上法 根刈り仕立てのような低い樹形に適する方法である。すなわち春発芽前に生育のよい枝条3～4本を選び、株上30cmのところ伐採する。切った枝条が翌年から新しい主幹となるもので、残りの枝条は春蚕期早目に基部から伐採収穫する。初秋蚕期は矮小枝を整理する程度にとどめ、晩秋蚕期には中間伐採収穫し、翌年春蚕期には母条の上から収穫する。

(2) 株下法 樹姿が不齊な株や、高い樹形に適用する方法である。春発芽前に地上約15cmの高さで主幹を切断するか、あるいは分岐部の直上で切り下げる。初秋蚕期には小枝を整理する程度として、晩秋蚕期には枝条長の1/2～1/3上方を中間伐採する。翌年春発芽前に多幹式仕立てをする要領で、切り残した枝条を20～30cmに剪定して主幹をつくる。



2-19 図 株上法



2-20 図 株下法

4. 収穫用器具・機械 桑の収穫に用いられる器具には、葉を収穫するものとして従来は摘桑爪・桑葉こき取り器が使用されたが、最近は条桑収穫の普及とともに桑切鎌・剪定ばさみ・のこぎりなどが使用され、特殊なものとしては、動力式バンド円盤のこぎり・エアコンプレッサー利用の動力剪定ばさみなどが用いられている。

また、養蚕経営規模の拡大に伴い、採桑労力の一層の効率化をはかるために条桑刈取機が考案され実用化している。



2-21 図 歩行型条桑刈取機